

第1学年 道徳科学習指導案

- 1 **主題名** 〈内容項目 B－(6) 親切・思いやり〉
- 2 **教材名** はしのうえのおおかみ（出典：光文書院）
- 3 **ねらい** 他者が喜ぶと、自分も嬉しくなる心があることが分かり、親切にすることのよさについて理解することができる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題の「親切・思いやり」は、学習指導要領の内容項目B－(6) 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることである。相手の立場や気持ちを思いやる心から、相手によかれと思う気持ちを向ける行為を親切という。自分の思いを押し付けるような行為は、ただのお節介で、疎ましく思われてしまう場合もある。親切な行為は、相手の気持ちを思いやる心によって生まれてこそ、道徳的になり、善になる。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、学校生活の中で他者と関わりをもつことを通して、互いに声をかけ合い、助け合うことで気持ちよく楽しく生活できることに気付きつつある。苦手な分野がある友達を理解する寛容さもある。しかし、友達を助けようとして、相手が自分でやろうとしていた学習や係の仕事を先取りしてしまうことや、やりたいと言えない相手の優しい性格を知った上で、強引に物事を進める場面も見られる。相手の立場や気持ちを思いやる心を持ち、親切にすることで、相手もよい気持ちになり、自分の喜びにもつながること、そんな心をもった集団ならば、より温かい人間関係を築けるよりよい集団になるのではないかと考えさせたい。また、学習面では、心情を想像することや自分の考えをもつこと、思いを表現することに消極的な面があることから、実態に応じた学習活動を展開したい。

(3) 教材について

一人しか渡れない一本橋。おおかみは、自分より小さなうさぎやたぬき、きつねが来るといばって追い返していたが、自分より大きなくまは、おおかみを抱きかかえて橋を通してくれた。くまの姿、優しさに感化されたおおかみは、今度は自分がうさぎに対して優しく接すると、よい気持ちを感じる。おおかみの心の変容をくまの行為と結び付けて考えさせることを通して、相手の立場や気持ちを思いやる心から生まれた親切は、自分の心も相手の心も喜ぶ、とても心地よいものであることに気付かせたい。

5 研究主題との関連

○視点1 教材を読む視点を与え、問題意識を高めるための導入の工夫

児童が主体的に課題について考えることができるよう、2枚の挿絵を黒板に提示し、おおかみの態度や心情が変容する話であることを事前に知らせる。電子黒板を用いて範読することで、児童はおおかみの気持ちになって教材を読み進めるであろう。くまの行為に触れた前後のおおかみの変容を理解することが容易になると考えられる。また、「はじめのおおかみは一で、あとのおおかみは一」と話し方の例を示すことで、自分の思いをもち、円滑に話合いが進められるように指導したい。

○視点2 自分の思いや考えをもつための対話的な話合いの場の設定

一人一人に、思いや考えをもちながら学びを進めてほしいと考えているが、課題を理解することが難しい児童、自分の思いや考えをもつことに時間がかかる児童、登場人物の行動を想像することが難しい児童等、様々な実態がある。友達の考えを手がかりに自分の考えをもつことができるよう、中心発問ではグループトークの時間を設ける。学習の仕方や約束を決めておいたり、電子黒板にくまの後ろ姿を大きく写し、話す児童はお面を付けておおかみになりきって話したりすることで、おおかみの行動のもとにある心に迫ることができるようにしたい。

○視点3 学びを振り返り、自己を見つめるための振り返りの場の設定

教師との対話を通して書いたり似た考えの友達の振り返りを参考に書いたりすることを可としている。振り返りを必ず書くことで、思いや考えをもつ経験を積み重ね、できた・分かったと実感できるようにしたい。

6 本時の展開 ◎中心的な発問

学習活動＜ <u>主な発問</u> と予想される児童の発言＞ <u>学習形態</u> (配時)	指導上の留意点 ◆ <u>評価の視点</u>
1 2枚の絵を見て、おおかみはどのように変わるのだろうかに興味をもつ。 <u>全体</u>(2) 2 教材を読んで、話し合う。 <u>全体</u>→<u>個</u>→<u>グループ</u>→<u>全体</u>(33) <u>うさぎやたぬき</u> ・うれしい。いい気持ち。 ・優しいな。びっくり。 <u>はじめのおおかみ</u> ・優しくない。弱い者いじめだ。 ・自分の方が強くて大きいから、自分が先だと思っている。 ・いばっていい気持ち。えらそう。 <u>あのおおかみ</u>「お先にどうぞ。」 ・自分が悪かった。 ・くまの真似をしたくなった。 ・優しい。にこにこしている。 ・とてもいい気持ち。 【いい気持ちの違い】 相手の気持ちを考えていない。 いじわるな心 相手の気持ちを考えている。 思いやりの心 ◎ くまの後ろ姿をじっとながめながら、おおかみはどんなことを考えていたのでしょうか。 やさしくしてもらおうと、うれしい気持ちになるんだな。自分もやってみよう。 (親切・思いやり) 自分が渡りたいからって、わがままだったな。 (節度・節制) 優しいくまさん、ありがとう。 (感謝) 自分は悪いことをしていた。これからはよいことをしよう。 (善悪の判断・自律) 親切にする→相手が嬉しくなる→自分も嬉しくなる→もっと親切にしたいくなる。 3 学習を振り返る。 <u>個</u>→<u>全体</u>(10) ・おおかみが、うさぎやたぬきに優しくすることができていいなと思いました。 ・私は、相手の気持ちを考えて、優しくすると気持ちがいいし、みんな仲良くなれると思いました。 ・ぼくは、相手の気持ちを考えて優しくすると、自分もうれしくなるんだなと思いました。そういう仲間だったら楽しく過ごせると思いました。	・黒板に2枚の絵を提示し、話の前後でおおかみが変わることを知らせ、読む視点を与える。 ・状況や内容を理解できるように、電子黒板で挿絵を大きく写しながら範読する。 ・「はじめのおおかみ」と「あのおおかみ」を対比させることで、「いい気持ち」の違いを明らかにし、板書に位置付ける。 ・「いい気持ち」の違いを問うことで、「相手の気持ちを考えた」上での行為であることを押さえ、「思いやり」という言葉を教える。 ・おおかみの心の変化には、くまの行為が関わっていることを確認し、発問をする。 ・中心発問において、グループトークの時間を設ける。話す人はお面を付けることで、おおかみになりきって考えられるようにする。 ・多様な意見を認めながら、親切にしてみよう自分も嬉しくなり、自分も親切にしたいくなる心があること、親切にすると自分の喜びにもなることを押さえる。 ◆くまから親切にされたおおかみの変容を考えた話し合ったりすることで、他者が喜ぶと自分も嬉しくなる心があることや、親切にすることのよさについて理解することができたか。 (ワークシート、発言、表情) ・学習を振り返り、自分の思いや考え、生き方を見つめられるよう、書く時間を十分に取る。 ・本時で学んだ価値について共有できるよう、意図的指名も含め、発表する時間を取る。

○ 本時の視点

他者が喜ぶと自分も嬉しくなる心があることや親切な行為のよさを理解するための手立てや支援は適切であったか。